



第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会

ランチョンセミナー

9

85th JDA Tokyo, 2021

座長

今福 信一 先生

福岡大学医学部 皮膚科学教室 教授

神人 正寿 先生

和歌山県立医科大学 皮膚科 教授

演者

小川 令 先生

日本医科大学 形成外科学教室 主任教授

2021年

11/14 sun

11:30 ▶ 12:30

第2会場 京王プラザホテル 5F  
コンコードボールルームC

確実に効果が出せる  
ケロイド・肥厚性瘢痕治療  
— 瘢痕形成・ケロイド体質のメカニズムから考える —

# 確実に効果が出せる ケロイド・肥厚性瘢痕治療

— 瘢痕形成・ケロイド体質のメカニズムから考える —

## 小川 令先生

日本医科大学 形成外科学教室  
主任教授



長い間、ケロイドや肥厚性瘢痕は発症機序が不明で、治療困難な疾患であると考えられてきた。医師は「体質であり治療困難である」と説明し、外来治療の終わりが見えないまま、ステロイドの注射を行い、ステロイドの軟膏を処方してきた。われわれは2006年から瘢痕・ケロイド治療の専門外来を設置し、日本全国から来院する患者を診察・治療し、今まで明らかになっていなかった発症メカニズムを解明してきた。当院のデータよりケロイド・肥厚性瘢痕は女性に優位に生じることが判明した。さらに、時々訪れる重症のケロイド症例に共通する因子を発見することができた。瘢痕・ケロイド治療研究会を主催し、診断基準や治療ガイドラインの作成に取り組んできた。その結果、現在では相当重症であると考えられるケロイドでさえ治療可能であるという結論に至ることができている。本講演では、副腎皮質ホルモン剤のテープや注射、レーザー治療、テープ固定からメイクアップ治療などの非手術治療を中心に、治療の意味と意義を考察する。

